

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入]新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)
受託者名	特定非営利活動法人津市NPOサポートセンター
実施期間	平成23年度：平成23年10月1日～平成24年3月31日 平成24年度：平成24年4月1日～平成25年3月29日
受託金額	平成23年度決算額：2,600,000円 平成24年度決算額：6,688,280円
事業概要	※概要がわかるように100字～150字程度で簡潔にまとめてください。 “ボランティア”をキーワードにしたフリーペーパー「HAMACHI (ハマチ)」を発行。メインのターゲット層を30代女性とした。発行部数は3,000～3,500部。年間で5回発行。情報、人、金などの資源が雑誌を通じて循環するきっかけを生むように取り組んだ。
受託内容	※内容とともに、支援のアウトプット(具体的な実施事項、数量、期間等)について記載してください。 NPO専門雑誌を発行し、イベント情報、ボランティア情報、企業CSR、協働に関する情報、寄付・助成金情報など、人・金・情報が雑誌を通じて循環するきっかけを生むように取り組む。 ・雑誌の発行 平成24年度に5回 ・雑誌作成のための検討委員会の開催 平成23年度～24年度に13回 ・雑誌の設置箇所 50カ所以上
成果の達成状況	[成果の達成目標] ■平成23年度に達成しようとする成果 実行委員会にて雑誌の内容を固め、見本誌を作成し、販売可能店舗を10店舗確保します。 NPO関係者、デザイナー、学生、企業関係者、行政関係者で形成される検討委員を設置し検討会を全7回開催しました。検討会は、当初の予定より2回多く開催し、様々な可能性を視野に入れながら議論ができました。議論の中で、①雑誌を作って売っただけでは県内の資源は循環できない。②対象によってアプローチを変える必要がある。この2点を当初の計画から大きく変えないと、売れない雑誌を作ってしまう「新しい公共」の資源循環の意味をなさないのではないかという議論になりました。

①については、議論を重ねた末、当初の計画にあった“雑誌を買うと寄付ができる”仕組みを応用して、小さいながらも津地域を対象とした市民ファンドを作ろうという話になりました。市民ファンドでの活動等を紙面に反映し、広報をしながらも資源が循環できる仕組みを目指すため、第5回の検討委員会では、コミュニティ・ユース・バンク momoの方をお迎えして、市民ファンドや市民バンクの可能性についてお話いただき、検討した結果、本事業での市民ファンドの設立は時間・労力・資金ともに難しいため、既存の市民ファンド・市民バンクのような仕組みと連携していくことがベストだという結論に至りました。

②については、1冊の雑誌ではなく、年代別で媒体等のアプローチを変える必要があるのではないかという話になりました（例えば50代・60代であれば、新聞に記事広告を載せる。10代・20代であれば電子媒体で情報を発信するなど）。

また、“雑誌の販売”についての議論も行いました。新しい公共の基盤を支えていくためには、1人でも多くの人に情報を届け、機会を提供する必要があるのではないかという結論に達しました。例えば、1,000人のうち50人が手に取る有料の雑誌ではなく、10,000人のうち5,000人が手に取る無料の雑誌（フリーペーパー）の方が、新しい公共、そして資源循環にとって価値あることだと考えました。

無料配布に伴い、販売という概念がなくなったので、販売店舗数は、雑誌設置店舗数（販売はしなくても設置していただける店）となりました。

「見本誌」に関しては、数ページの見本誌を作成するよりは、創刊号を手に取りたくなるようなツールを大量に配布した方が、より多くの人にアプローチできるため、PR用のリーフレットを作成することになりました。また、当初は見本誌をもって販売協力店舗を確保する予定でしたが、雑誌自体が無料配布になったことで協力店舗の確保が容易になり見本誌が不要となったため、リーフレットの配布に切り替え、多くの市民・県民の方への周知に注力することとしました。

雑誌名は「HAMACHI（ハマチ）」とし、平成24年6月の創刊を目指しました。

フリーペーパーの設置可能店舗も10店舗から設置許可を得ました。

■平成24年度に達成しようとする成果

設置箇所を50か所に増やします。

※達成に向けて行った工夫 または未達成の原因及び講じた対応策を記載してください。

“ボランティアをすることでスキルアップに繋がる”ことを切り口に、情報誌「HAMACHI」を発行することができました。読者のメインターゲットを「生活の中で価値や質の向上を求めている。NPO活動の中であまり出会わない（見かけない）。」30代の女性に絞り記事を企画・掲載しています。

また30代女性にターゲットを絞った理由はもう1つあります。人材や資金、物資や情報などの資源がある中で、未来に繋げていくための最も大切な資源は人だと考

えています。しかし日本の人口減少に歯止めはかからず、2050年の人口は1億人を切ると言われています。人口減少を軽減するいくつかの方法として、出生率の向上と自殺率の減少があります。女性の結婚と出生率は、女性が社会である程度の地位や役職につくほど高くなるという傾向がヨーロッパでみられており、日本も戦後以降、出生率と女性の社会的地位はヨーロッパに近いグラフを描いているそうです。さらに自殺率においても、2007年の調査で男性が世界8位なのに対し、日本の女性の自殺率は世界4位となっています。昔に比べて女性が社会に出るための入口が広がりましたが、それでもまだ日本は女性にとって、選択肢、機会、情報などが極端に制限されている社会であると考えています。

そこでHAMACHIでは、ボランティアを切り口に多様な生き方、多様な成長の仕方を女性に提案し、将来の地域資源の循環に繋げていきたいという願いもありターゲット層を絞りました。

「HAMACHI」は今までのNPO関連の情報誌や広報誌とは違う“切り口”で訴えかけていくことに注力しています。「伝えたいことをストレートに伝える」のではなく、「伝えたいことを別の切り口から変化球的に伝え、読み手の身近なものとして捉えてもらったあと、本当に伝えたいことに気づいてもらう」ことを心がけています。そのことでより多くの人へ間接的に課題を訴求していますし、既存の情報誌等との差別化も図っています。

またフリーペーパーですが、厚みをもたせ本誌の格調を上げることにしました(捨てられないフリーペーパーにしました)。そのため発行部数が当初予定より減ってはいますがブランド化には成功しています。

Facebookとも連携を図り本誌で載せられなかった記事や、本誌掲載のためのアンケートをFacebook上で行っています。3月31日現在のFacebookページの「いいね」は200以上。アンケート開催時等は最大で4,000人にアプローチできています。

情報を伝える“切り口”の工夫は随所で行っています。

創刊号では、「まちづくり」を全面に押し出さず、婚活パーティーを切り口としたまちづくりの取り組みを紹介しています。

第2号では、CSRを全面に押し出さず、地元企業のこだわり商品やサービス、特にメジャーではなく知って得をするような商品を紹介しました。どちらも、自分には関係ないという記事ではなく、興味があればすぐに参加できる、又はすぐに購入できるという点に気をつけています。

第3号では、仕事や趣味、地域活動を生き生きと行う女性を取材し、1つの生きたモデルケースを提案しました。

第4号では、獣害に困っている地域について“ジビエ料理”という切り口で紹介しています。

第5号では、お金を切り口に「公営ギャンブル」「寄付と応援」「地元にお金を落とす」「将来を三重で過ごすためにお金に向き合う」の4テーマで特集を組みました。

ボランティア募集のページである「+LIFE」のコーナーでは、A4 1ページにボランティア情報を集約し「あなたのスキルアップのための選択肢の1つとしてボランティアはいかがですか？」という表現の仕方をしています。またボランティアの受け入れ団体の背景が見えるよう、インタビュー記事を掲載しています。A4サイズ1ページに1団体を掲載している理由としては、そのページを印刷することで取材に応じていただいた団体自身が、ボランティア募集のチラシとして使えるためです。

実際にこの+LIFEの記事を読んでボランティアに参加している方もいますし、取材先からお礼の連絡などもいただいています。

ボランティアは単発のものではなく、継続的に受け入れるもののみを選んでおり、雑誌としての情報を風化させないようにしています。全5号を合わせて20団体を取り上げています。

また発行が最新のものになるほどボランティアが見つかる速度も上がり、第4号では発行したその日に掲載団体のもとへ問い合わせがあったそうです。これはNPOやボランティアの情報誌としてのブランドを、少しずつですが確立してきているのではないかと考えています。

表紙に関しては公募形式にし、より多くの人を巻き込むよう工夫しています。特に地域のアマチュアデザイナーなどの活動発表の場になりつつあります。

雑誌自体の評判も良いため、約130カ所の店舗等が設置協力していただいています。例えば桑名駅では、250部設置した結果全てなくなりました。通常の飲食店などでも10部という少数部を設置させていただいていますが、設置後数日で0になるという報告をいただいています。一度取材させていただいた団体からも、再度取材に来てほしいという依頼もあります。

ファンも多く、ボランティアなどで関わりたいという連絡もありました。

平成23年度の成果物	平成24年度の成果物
添付 <u>あり</u> ・ なし	添付 <u>あり</u> ・ なし
①HAMACHI リーフレット (URL)	③HAMACHI 1～5号 (URL)
② (URL)	④ (URL)
<p>※成果物がインターネットで公開されている場合は当該ウェブページのURLを記載してください。但し、公開されている場合であっても現物の提出をお願いします。</p> <p>※番号は平成23年度から順に記載していただき、適宜増減してください。</p>	

<p>得られた成果及び自己評価</p>	<p>※支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。</p> <p>5号併せて15,000部以上の雑誌を発行しました。約130か所に設置させていただきました。</p> <p>30代女性にターゲットを絞ったことから、女性からの反響が非常にありました。中でもHAMACHIを見てボランティアに行ったことで活動のきっかけになったという報告を個人の方からいただきました。</p> <p>また、+LIFEでボランティア情報をA41ページにまとめたことで、それを印刷して配布したりHPに掲載したりしてボランティア募集の広報素材の1つとして活用している団体の方もあります。</p> <p>Facebookページとも連動していることから、多くの方に情報をリーチしていることも実感できました（1つの情報につき平均100人程度。多い時で4000人。）紙媒体とWEBの連動による情報発信の可能性を見いだせました。</p> <p>今後の展開ですが、まず平成24年度3月を区切りに、現在の形を見直すために1年間の充電期間に入ります。そして充電期間中は3つのことに取り組みます。</p> <p>1つ目はさらなるファンの拡大と資金の獲得です。お陰様でこの1年間で様々な方に興味を持っていただき、HAMACHIに関するお問い合わせもいただきました。しかし現在の発行形式では、発行するための資金を稼ぐために、広告にしても販売にしても、他社の雑誌と収入源の競争を行う形になってしまいますし、自転車操業になる可能性が極めて高いと考えています。それはより良い資源循環を目指す私たちの取り組みの意志に反します。メインターゲット層が30代女性であるため経費を節減できるWEBマガジンも考えたのですが、単にWEBマガジンを発行しただけでは、読者数が極端に下がり、収入の不安定面も解消されていません。</p> <p>そこで私たちが考えたのはHAMACHIのファンの拡大と資金の獲得を同時に行う方法です。私たちはこれから1年かけて、1口500円で1万人の方に寄付をしていただこうと考えています（計500万円）。津市内・三重県内のより良い地域活動情報を発信していくことで、いま以上に幸せな地域となることにご理解とご賛同をいただくために、個人にお願いしたり、イベントをおこなったりして集めていく予定です。集めた資金で約3年間、WEBマガジンとしてHAMACHIを発行していきます。読者・ファンはこの1年間でお会いした方々です。これにより読者数を下げることなく情報を切り口とした資源循環を継続できると考えています。</p> <p>2つ目はコミュニティスペースの運営です。HAMACHI隠れ家プロジェクトとして立ち上げた「コミュニティスペース kaidan（カイダン）」を活用して、個人の夢を応援し、困ったときに助け合える小さなコミュニティを作ります。個人の成長は地域の財産となります。このスペースに集まった様々なスキルを持つ個人と地域のNPOをつなげることで、人材の資源循環を図り、より高い地域活動が行われているコミュニティを目指します。</p> <p>さらにこのような小さなコミュニティが津市内・三重県内にいくつかできること</p>
---------------------	--

<p>で、コミュニティ間の連携を図り大きなコミュニティ（集合体）にすることも考えています。最初から大きなコミュニティを想定して活動をすると、課題の不一致が起こったり、個性が殺されてしまったりすることがあります。大切なのは顔の見える距離で繋がりあい、その小さな繋がり同士が繋がることで、大きな繋がりへと発展していく段階を踏むことだと考えています。現在、津市美里町にある NPO 法人 サルシカが持つ「秘密基地」（4月21日オープン）との連携を進めています（どのように連携するかを検討中）。2年後、3年後にいくつかのコミュニティが繋がりあい、少なくとも津市内では、場所と人材が線で結ばれている関係性をつくることを目指したいと思います。</p> <p>3つ目は弊法人の他のプロジェクトとの連携を図ることです。現在、コミュニティビジネス事業者により良い資源が流れる仕組みをつくるプロジェクト。まちに交流や賑わいを作るプロジェクト。市民活動団体への IT 活用を推進するプロジェクトなどがあります。そのようなプロジェクトと連携し、この1年半で培った情報発信のノウハウやスキル、ネットワークを活用し、良い相互関係を築いていくことで地域や NPO 等にとって高い支援ができるように尽力していきます。</p>	
評価ランク	<input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった （該当する評価に <input checked="" type="checkbox"/> を付けてください。）

2. その他参考となる資料の添付 あり ・ なし

（添付資料がインターネットで公開されている場合は当該ウェブページの URL を記載してください。但し、公開されている場合であっても現物の提出をお願いします。）

資料名： _____ (URL _____)

※行は適宜付け足して記入してください。